



色いろ
 深あかり
 棟むね
 睡ね
 夢ゆめ

2915
 1



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, written on a dark background strip. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, written on a dark background strip. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left across the page.

Small vertical text or markings on the left margin of the left page.

Small vertical text or markings on the left margin of the left page.

古語小曰寸ゆつくまなまきとありたも程ちかきこと
 あり長羽織ながはねの古風ふるかぜありいふぢう羽織はねは
 劣とろせあり理りやまよとむけそのもき世よの中なかに
 づいともがしつゝいふ筆ふでの命いのちを肩かたあ
 鼻はなもあの手て結むすを程ちかき書かきく一ひと世よの
 心こころふ一ひと名なは一ひと波なみの骨こつ髄ずいとや

子こづ一ひとは江え戸ど氣き字じの種たね美み日ひの
 巻まき尾おをあた一ひとひつつの小冊せうさく子ことあり
 世よ首くびは序おせよといふ指ゆびをいふは海うみ軍ぐん一ひと
 程ちかき手てや長ながく一ひと記し割わり刷すりの費つひをち寸ゆつくま
 さいいふふふふふ筆ふでをむらむらとすこのぬ
 顔かほを家いへそのぬき 梅うめの主人しゅじん



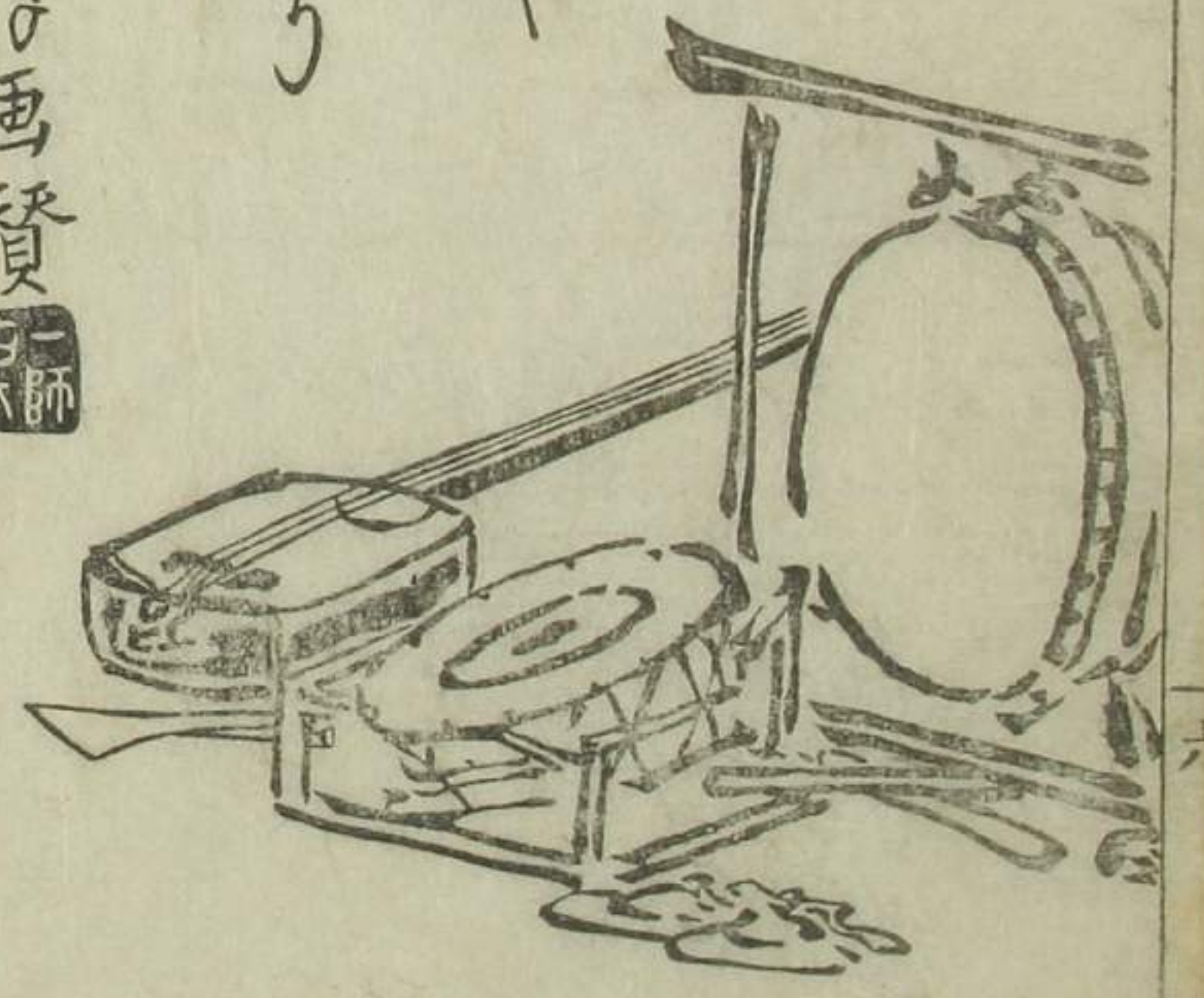


梅柳

あつさるや

百ちどり

梅香画賛



深い色あ採と睡ね夢ゆめ卷まき之の上うへ

葺つく廼な屋や高たか振ふ速すみ
柳やなぎ園の種たね春はる枝えだ合あ

第一回

教か善ぜんおおくくふふ文ぶん月げつももそそううのの凡たたたりりああかかれ
くく小こああるる虫むし乃なりいい急いめめいいちちのの杖つゑののいいろろととたたららしし
みみづづらら糸いとををたたほほんん小こののああががままははももああららははららふふ
井いははららみみ身みととああららんんををううららめめししきき笠かさ見みののちちとと二に十じ
奇うののむむとと姉あねをを隣となりの子こががいいかかむむくく三さん味みももここががああらら乃なり
ううへへままいいししくくととううららううててけけらら夕ゆふ間まががれれううげげかかそ

早く焼火よそいけしう月やみづんがそのおもて
 したそけ人も時の内あり大えや小名なれば若づも
 大角とも年ハ二八の色けり桃李の魚や揚柳の鳥
 小まといふ姿よ西施も後けけと社小所も花のいろ
 とくあふ今宵も秋家小將しうららかあれを思ひ
 たえすも本津甚の客柳浦とさあえ一人はままよ
 ても思われ思ふ意中けりあけりけり文のたより
 もなるく小かづの岩橋あそびまのちらきりも
 あえく遠げるとものに思ふて思ひふむ祿もむら
 ねく小大えやの迫し女助いやくりく門口とそい

色紙巻
 七

大角さんあふうらふこれ本津甚くうらまきゆり
 因そ何といひしや本津甚くうらまきゆり
 因ハイさうしや因ヲ嬉しき福んが屏いて思ひ
 かかきよのしやあろ一寸たかみかんがらうわんふりや
 それうとむせぬらううらまきゆり
 中ふまきぬらううらまきゆりトミカハ因叶ありかあまぬち
 ちいりけんあまらる因うらまきゆり
 トミカハトミカハ因エトミカハゆり
 地こ小石があらうらまきゆり
 情ていトミカハトミカハトミカハトミカハ
 大角さんあふうらふこれ本津甚くうらまきゆり

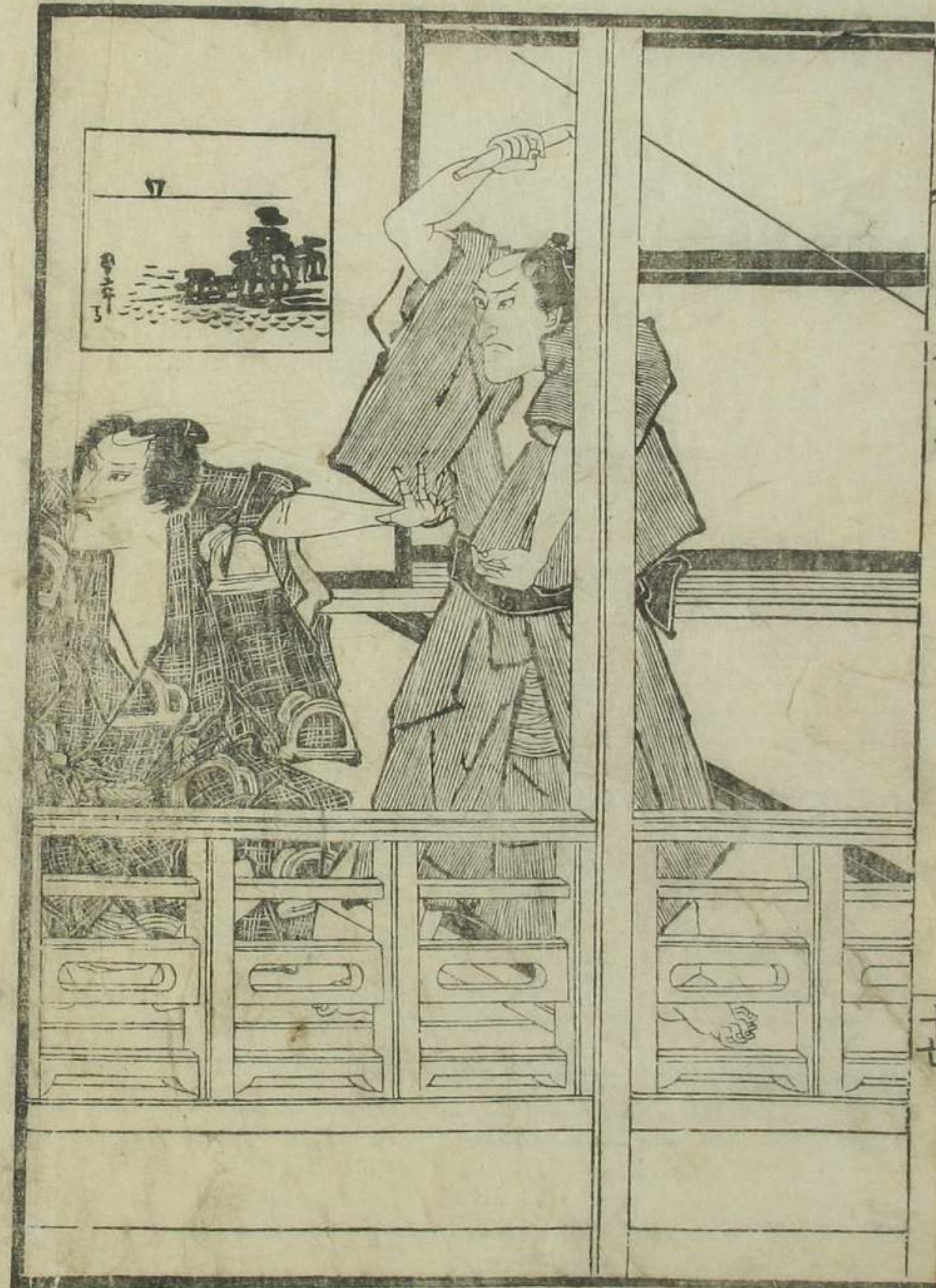
色紙巻
 八



評日それ人々を一點乃情ありんや。

情ありきそはるる歎めむとたえ
娼婦のう小實をけくんとおの
くも。客の心真実をせうん小おのそ
まの川の時、其まけあふきや。し
ちと動一通り乃客ありとも其客
練ありんゆは。終み情のいとらふ
むうれく其の底は至家娼婦と
こそ世間の婦人あり一朝千金
めをあげありれ。十年多客小情と

南の依而そは真とくをれ小似れ
と却る能世情母ありれ。そは如
あれたものおあはは只娼婦らことぐ
くつりもうと以客をあさむもれ
その心はさふもたむあるおや
まりありや。畢竟この大角
柳の隅とふとあら。下回又後出
はと宛しと善弁解せよ



評曰 今大角はよく死時をたのむ
 中へは真ありや虚ありや時あり
 かくさづけりめはうきを此中へさす
 此心ありと元来大角小地の魂と
 中らうしあるはあれはいつてもあ
 りあのおごくありんや。娼婦を
 これとさうり且柳の心とかあせん
 かあめふさぎや柳しさうせん
 かくあやしそはあう。時後言
 時屋あふさうさうさうさうさう小

あさんあまのいりてう黙とあげうま
 ざんや。結二三寸は舌頭兩人を
 こらに真小性なるの芥なり。
 ねるるだーおやうべし

深色猿睡夢卷之上畢

